

○遠野の生産者に聞く！

今回は 2001 年から 2017 年まで遠野市乗用馬生産組合長を務められた菊池栄喜さん(78)にご登場いただきます。栄喜さんが生産した馬たちは多くの競技会で素晴らしい成績をおさめています。その秘訣を伺ってみると・・・。



ハリーベいの妹ヴィクト・アール親子を引く栄喜さん (2018年5月)

○菊池栄喜さん

栄喜さんは組合結成当初からのメンバーではありませんが、二代目組合長を務めた同級生の菊池和一さん(故人)から馬を飼うことを勧められて馬産を始めました。それから 30 年以上、馬を育てる上で大切だと思うのは「子馬と友達になること」だといいます。「お産のときは必ず付き添い、子馬が生まれると体を拭きながら話しかける。そこで応える馬はほぼまちががなく出世する」。そして「良い馬とは人が呼べば来る馬」と一言。馬産で苦勞することは、「毎年同じように世話しているのに、無事に子馬が生まれる年もあれば流産や生まれてきた子馬が育たない年もある。生き物は難しい」。一番印象に残っている馬は、内国産馬で初めて海外の競技会で優勝したハリーベイ(JRA)だそうです。また 18 頭も子馬を産みながら一度も獣医にかかったことがないという繁殖牝馬の野菊も忘れがたい 1 頭で、現在産駒のフリーデンティアモ(霧島高原乗馬クラブ)が国体や全国大会ですばらしい成績を収めています。昨年は、毎年 7 月に開催される神奈川ホースショーの遠野産馬ジャンピングカップで栄喜さんの生産馬が 1 位から 3 位を占め、本当に嬉しかったそうです。多くの活躍馬を送り出している栄喜さんですが、長い間の組合長時代にはご苦勞も多かったはず。今一番憂慮するのは、「遠野の生産者の高齢化が進み 70 代が多くなったこと。後継者がほしい。若い生産者や馬好きな人を増やしたい。よそから来る生産者も歓迎する」。そしてライダーやユーザーに望むことは「馬には、競技に出るピリッとした馬もいれば、競技には出ずに大人しくて一鞍で金を取ることができる馬もいて、それぞれの適性がある。我々生産者は生みの親だが、ユーザー、ライダーは育ての親。馬の適性を把握してきちんと育てて欲しい」。



ハリーベイと再会 (2015年12月 JRA 馬事公苑にて)

* 菊池栄喜氏：小友町出身。菊栄工務店経営の一方で遠野市乗用馬生産組合第 5 代組合長を務めた。現在副組合長。生産馬は障害で活躍中のハリーベイ(前出)をはじめ、フリーデンティアモ(前出)、全日本総合馬術優勝のフリーロンドン(JRA)、チルドレン障害優勝のひなざくら(中島トニアシュタール)など多数。

遠野馬通信

馬産地遠野とホースマンを結ぶ
情報誌

No.27

2019年1月31日